

県史跡第1号指定から半世紀経て「国史跡」答申 高地性集落「会下山遺跡」

考古・古代史の世界では超一級の遺跡として知られてきた会下山遺跡は、市民が発見以来50年にわたって守ってきた大切な本市の宝です。すでに兵庫県史跡第1号でしたが、昨年の11月には「国史跡」指定の答申を受けました。今号では、半世紀に及ぶ歴史的な経過を特集し、会下山遺跡の過去・現在・未来を一緒に考えたいと思います。

問い合わせ 生涯学習課文化財担当 ☎38-2115

近年の調査を振り返って

平成十九(二一)年度の三カ年で実施した第八十次発掘調査によって、これまで分かっていなかった会下山遺跡の歴史像を塗り替える、数多くの発見がもたらされました。その一つは、これまで山頂から尾根部にかけてのみ存在すると考えられていた遺跡が、東斜面裾部など標高の低い位置で柱穴や段状遺構写真(が確認されたこと)によって山全体を対象とした広範囲に及ぶ集落跡であることが分かりました(航空写真)。

二つめは、遺跡範囲の北限境界を見極めることができました。標高二百メートルの最高所には、過去の調査によって祭祀場が確認されていますが、そこから二十五、三十メートルほど北西に登り道を進んだところで、二条の溝状遺構を確認しました。

会下山遺跡の文化的価値

会下山遺跡は、三糸町に所在する今から約二千年前の弥生時代の集落跡です。昭和二十九年に、山手中学校による会下山山腹の造道工事中に生徒が弥生土器を発見し、その後、昭和三十一年(三六)年には、遺跡の内容を明らかにするため、五次にわたって発掘調査が実施されました。



遺跡から出土した弥生土器



遺跡から出土したガラス玉

山頂や尾根から竪穴住居跡や倉庫跡、祭祀場跡、火たきき場跡などが見つかりました。そして、米作りを生業としていた弥生時代において、まったく不適な山のムラがあったことが明らかになり、見晴らしが大変良好な立地で、その結果、山頂や尾根から竪穴住居跡や倉庫跡、祭祀場跡、火たきき場跡などが見つかりました。そして、米作りを生業としていた弥生時代において、まったく不適な山のムラがあったことが明らかになり、見晴らしが大変良好な立地で、その結果、山頂や尾根から竪穴住居跡や倉庫跡、祭祀場跡、火たきき場跡などが見つかりました。



●詠み人・村川行弘氏 枳敷きこく(と)号された。考古学者。昭和34年の大阪城総合学術調査で石垣の刻印を調査し、現存する大阪城の石垣が徳川時代の再築と裏付けた。また会下山遺跡では第1～5次の調査担当で、本市文化財保護審議委員を長年務め、本市の第1回市民文化賞受賞。昨年4月、83歳で逝去された。

●は竪穴式建物跡

会下山遺跡へのアクセス
※阪急芦屋川駅から、坂道を上って徒歩約30分のところ。遺跡周辺に、駐車場はありません。急な山道が多いので、足元に十分ご注意ください。



六甲南東麓斜面に位置する会下山遺跡(赤色枠線内が遺跡範囲)

高地性集落「会下山遺跡」発掘の歴史

昭和29年(1954年)	会下山遺跡の発見	写真① 写真② 写真③
昭和31年(1956年)	第1次発掘調査	
昭和33年(1958年)	第2次発掘調査	
昭和34年(1959年)	第3次発掘調査	写真④⑤
昭和35年(1960年)	第4次発掘調査	
昭和36年(1961年)	兵庫県史跡第1号指定	写真④⑤
昭和39年(1964年)	報告書『会下山遺跡』刊行	
昭和46年(1971年)・昭和51年(1976年)	『新修芦屋市史』本篇・資料篇に会下山遺跡の内容を紹介	写真④⑤
昭和48年(1973年)	報告書『会下山弥生遺跡』刊行	
平成14年(2002年)	第7次発掘調査	写真④⑤
平成18年(2006年)	会下山遺跡発掘開始50周年記念事業 *ルナ・ホールで、苅谷俊介氏による記念講演と「歴史フォーラム」を開催(6月25日)	
平成20年(2008年)	第8次発掘調査	写真④⑤
平成21年(2009年)	第9次発掘調査	
平成22年(2010年)	第10次発掘調査	写真④⑤
	『会下山遺跡確認調査報告書』刊行	
	国史跡指定の答申	

国史跡とは

国史跡は、文化財保護法の規定に基づいて、「わが国の歴史の正しい理解のために欠くことができず、かつ、その遺跡の規模・遺構・出土遺物等において、学術上価値あるもの」として、文部科学大臣が指定するものです。

その内容は、貝塚・古墳・都城跡・城跡・旧宅など多岐にわたっており、都道府県から意見申されたものうち、これらの条件を満たすと判断されたものが、文部科学大臣から文化審議会に諮問され、文化審議会における専門家の審議、文部科学大臣への答申を経た上で、史跡に指定されます。

現在、国内では1,648件、兵庫県下では43件の国史跡と1件の特別史跡(姫路城跡)があります。

会下山遺跡と同じ弥生時代の「貝塚・集落跡・古墳・墓地等」として指定されているのは、田能遺跡(尼崎市・伊丹市)、大中遺跡(播磨町)、新宮宮内遺跡(たつの市)、加茂遺跡(川西市)の4件です。いずれも国の宝として、地域の人々の力で守られ、活用されています。

なお今回、会下山遺跡と同時期に国史跡に答申された11件には、日本を代表する山岳信仰の対象「富士山(富士吉田市・富士宮市など)をはじめ、戦国時代に織田信長が居城とした「岐阜城跡(岐阜市)ほか、松坂城跡(松阪市)」「垣ノ島遺跡(函館市)」「横大道製鉄遺跡(南相馬市)」「神崎遺跡(綾瀬市)」「楠葉台場跡(枚方市)」「荒神山古墳(彦根市)」「葉在池古墳(松山市)そして沖縄の内間御殿(西原町)があります。

会下山遺跡のこれから

会下山遺跡は、県史跡第一号として指定されてから五十年経った昨年の十一月、国史跡指定の答申を受けました。

本遺跡は昭和三十年代の発掘調査以来、六甲の自然に溶け込んだ歴史教材場として守られ続け、市民やハイカーの憩いの場として親しまれてきました。

そして、これからは、本市の歴史遺産の中核となる国史跡として、未永く未来へ大切に守り継がれるよう整備され、これまで以上に歴史や文化に触れられる場となるよう、より一層活用したいものです。



三翼鎮(本市指定文化財)や多数の鉄器、近江や河内・播磨・讃岐などの各地域から持ち込まれた土器などが認められ、本遺跡が閉鎖的な環境ではなく、先進的な文化や遠隔地の物資を、活発な交流によって入手していたことも明らかとなりました。



会下山遺跡 発掘の歴史 1956年～2009年

GATV 広報番組ガイド

1月前半	芦屋市広報番組 あしやトライあぐる	放送時間(30分)
お正月特集	山中健芦屋市長に聞く2011	8:30
トピックス	市制施行70周年メモリアル植樹	12:00
	美術博物館の展示	16:00
	昭和の面影5 暮しと道具・古今雜	19:00
お知らせ	1.17 芦屋市祈りと誓いがんフォーラム2010	22:30
エンディング	市制施行70周年記念写真集「芦屋の四季・70選」より	※DVD VTR 貸出可

■アナログ放送は9chで、地上デジタル放送は11chでご覧ください。
■番組に関する問い合わせ 広報課 ☎38-2006 ■GATV全般に関する問い合わせ 機ケーブルネット神戸芦屋(J・COM)カスタマーセンター ☎0120-13-8160

ヒューマンライツシアター 「おとうと」

家族という厄介な、でも切っても切れない絆、
現在とこれからの日本の家族の姿を描いた感動作

■日 時 1月16日(土) 午後2時～4時6分
午前10時30分～午後0時36分

■会 場 上宮川文化センター3階ホール

■出 演 吉永小百合・笑福亭鶴瓶・蒼井優・加瀬亮 / 山田洋次監督作品 2009年・126分

■定 員 各回・先着150人

■申し込み 直接会場へ

問い合わせ 上宮川文化センター ☎22-9229

假屋崎 省吾 フラワーデモンストレーション&トークショー

“美をつむぎ出す手を持つ人”と評される假屋崎省吾が繰り広げる、繊細かつ大胆・華麗なる美の世界を、あなたも体感してみてください。

■日 時 1月30日(日)午後2時30分開演(2時間場)

■会 場 ルナ・ホール<全席指定>

■入 場 料 前売3,000円(当日3,500円)

■チケット販売所 市民センター事務所・グリーン業平・市役所売店・ローソンチケット(Lコード55608)

問い合わせ 市民センター ☎31-4995

全盲のバリトン歌手 公民館音楽会 時田直也・ふれあいコンサート

■日 時 1月22日(土)午後1時30分～3時

■会 場 市民センター音楽室

■曲 目 この道ノベチカノ菩提樹ほか

■定 員 60人

■参加費 500円

■申し込み はがきまたはファクスに、事業名・住所・氏名・電話番号を記入し、1月12日(水)<必着>までに下記へ

時田直也(バリトン)

問い合わせ 公民館 ☎35-0700/☎31-4998(〒659-0068 業平町8-24)